



KYOTO

# 京都不思議ふしぎ!?

京都に隠れた意外な秘密を紹介します

## 豆をまかない節分? 超人気行事の意外な秘密!

新たな時(関)の声をあげた西蔵ももうすぐ二月。今号では二月の年中行事、節分の意外な秘密をご紹介します。

京都の節分といえは真つ先にその名が挙がる吉田神社。毎年参道は人の波で埋め尽くされま。ところでこの節分、豆をまかないつてご存じでしたか? 普通の節分は暴れまわる鬼たちに豆をぶつけて退散させ、福を呼び込む行事ですが、吉田神社の節分は豆をまきません。その代わり「厄塚」という独自の装置に触れて厄を祓うのです。

八角の台に、八角の棒を立て、その上端に「薄の穂束」三つを立てて並べ、棒を添えます。棒と台とを藁で包み、その上を縄で螺旋状に巻き、さらに台の上に百日紅の若芽と棒を添え、建物正面から八筋の注連縄で結ぶのです。「八」が多いですね。八は吉田神社の根本数で、祭神の天児屋根命もここでは「天之子八根命」と表記します。不思議なのはこの「百日紅」。現在神社では厄塚は龍を逆にしたもので、百日紅の若芽は龍のヒゲと説明されています。この厄塚を考案したとされる吉田神道の大成者・吉田兼俱の神霊が祀られるのは神龍社といえますからそ

れも納得です。ただ私は密かに別のことを思っています。

百日紅は別名を「紫微」といいます。紫微とは中国で北極星のこと。吉田神道の教えは天之子八根命が発した言葉を北斗七星の神が地上に下つて漢字に写したものとされています。つまり北極星は祭神そのもの。百日紅の秘密も案外そのあたりにあるのではと。さらに厄塚に巻かれる縄はすべて左纏いであることや、節分の三日間だけ授与される梔子色の「疫神齋」の神符など大切なことはまだまだたくさんあります。吉田神社の節分はその福引の景品が豪華なことでも有名ですが、京都には他に

もさまざまな歴史を持つ節分行事が各所に伝えられています。一月は都の鬼たち受難の月でもあるのです。

そうそう。豆まきといえは、各地で豆を投げつけられ追い出された鬼たちはどこへ行くか? 存じですか? 実は千本桜で有名な吉野の蔵王堂へ行くのです。修験の祖・役行者は鬼を改心させて使役したといわれ、行き場をなくした鬼たちが逃げ込むのが蔵王堂。ですから金峯山寺の節分会では「福は内、鬼も内」と唱えるのです。鬼にもちゃんと救いが用意されているなんていい話ですね。

(京都学園大学非常勤講師 堤勇二)

歴史や文化、全てが源流へとたどり着く古都。京都を知ることには日本を理解すること。

京都好きを大好きに

京都 検定

京都・観光文化検定試験 京都商工会議所



吉田神社 齋場所大元宮



厄塚



赤い枝が百日紅の若芽



梔子色の神符「疫神齋」の文字は後水尾天皇と伝える



金峯山寺の節分会ポスター部分